

# 平成25年度 事業計画書

自 平成25年4月 1日

至 平成26年3月31日

一般社団法人日本自動認識システム協会

## 目次

### I 事業計画書

1. 事業運営の方針	2
2. 事業計画	3
2.1 自動認識システム等に関する調査研究	3
2.2 自動認識システム等に関する規格の立案及び標準化の推進	3
2.3 自動認識システム等に関する普及啓発	4
2.4 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流及び協力	5

# I 平成 25 年度(第 3 期)事業計画書

(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

## 1. 事業運営の方針

今年は、政権が変わって経済活動が順調に進展しつつあり景気動向は明るい見通しがでている。この兆しにのり、自動認識業界の活性化に向けた活動を推進していく。

当協会は一般社団法人に移行したことで、公益目的の活動を大きな柱として会員の活動を補佐し、新たな市場作りを積極的に行い、各種現場で解決できない問題についてはガイドライン化を促進させ、自動認識技術によるメリットを多くの人に共有できる仕事を促進して行く。

JAISA の独自の統計でみると、平成 20 年及び 21 年統計値では、それぞれ 2,340 億円 2,170 億円となっており、22 年 2,205 億円、23 年 2,111 億円、24 年速報値では 2,296 億円となり、平成 20 年の統計値には及ばず、昨年は更に落ち込んでいたが、回復の兆しがみえている。

当協会の事業活動は、会員の会費、展示会・セミナー事業、資格試験、受託事業等の 4 本柱であり、これらの事業活動をみなおし改善を図ることで、明確な目標を持って積極的に行えば協会として健全で安定した事業運営ができる。

会費収入は、近年の経済環境から大幅なアップは見込めない状況であるが、協会のさらなる発展のためにあらたな施策を考え、今年度からは、統計調査データのなかで大きなウエイトのある、バーコードサプライ市場を共有する企業へ、入会促進及び展示会への出展依頼を積極的におこなっていく。また、入会促進ができれば展示会への出展への見込みも拡大する。

JAISA の会員数は、昨年から 6 社の入会と退会があり、予算理事会後の数値は変わらず、122 社である。

自動認識市場では、RFID の周波数移行にともなう各種交渉が昨年より重みをましているなか JAISA では、会員との取り組みを積極的に行い、移行完了を目指し対応をすすめる。

展示会でのテーマコーナーやシステム・カード部会等で、NFC をテーマに講師を招き、会員相互の理解を深めるとともに、市場への導入促進をすすめる。

資格試験は当協会の会員受講が多く、一般企業への紹介が必要なジャンルでもあり、入会促進と共に PR を強化しさらに、拡大推進するものとする。

受託事業は資金負担という問題を含んでおり、今後は本年度実施される金額の範囲での継続をすすめることを目指す。受託内容は自動認識業界の発展に寄与するものであることから、会員に理解を深めて戴ける様な機会を考えていくものとする。

なお、各製品分野の部会活動・委員会活動等は、限られた経費の中で、創意工夫を行い、会員の満足度を高められるよう、市場創りに向けてより積極的に実施するものとする。

## 2. 25年度事業計画

### 2.1 自動認識システム等に関する調査研究事業

#### ①国内出荷統計調査

統計調査委員会が中心となり、平成25年1月から12月末までの期間の国内出荷統計調査、分析及び平成26年の市場動向予測を行う。

#### ②RFID電波関連調査研究(周波数移行)

RFID専門委員会及び周波数移行促進プロジェクトとして、UHF帯RFID周波数移行促進措置に関するRFID会員企業、総務省、RFID業界ユーザ及びソフトバンクモバイル株式会社対応を実施する。

#### ③バイオメトリクスに関する調査研究

BSC委員会にて、バイオメトリクスに関する技術的な課題で、産業界で共通に対応すべき事項の技術標準、マルチモーダル認証性能評価、IDマネジメント技術などの情報共有化すべき事項についての調査研究を行う。

### 2.2 規格の立案及び標準化の推進事業

#### ①トレーサビリティ標準化推進事業

ISO/TC122(包装)/WG12(物流技術のサプライチェーンアプリケーション)の国内対策委員会として物品識別標準化委員会を昨年引き続き開催し、主にサプライチェーンに対するRFID適用のための規格であるISO1736Xシリーズを広くユーザに採用してもらうために、そのJIS化を目指すとともに、各業界への広報活動を実施する。

ISO/TC204(高度道路交通システム)/WG7(商用車運行管理分科会)の作業アイテムである「サプライチェーンにおける完成車物流の可視化手法に関する標準化」を昨年引き続き推進し、完成車輸送会社、自動車ターミナル等の物流会社を中心に、個品としての完成車のリアルタイム監視のための情報基盤概念の立案、およびその活用概念の規格作成を推進する。

#### ②ISO/IEC JTC1/SC31 標準化推進

ISO/IEC JTC1/SC31(データ取得および識別システム)/WG1(データキャリア)、WG2(データストラクチャー)、WG4(RFID)、WG5(リアルタイム・ロケーティング・システム)およびWG6(モバイルRFIDリーダライタのためのエアインタフェース仕様)、WG7(セキュリティサービスのAES-128の暗号スイートに対するエアインタフェース)の国際標準の策定に向けて一般社団法人電子情報技術産業協会(JEITA)に協力し活動を行う。

#### ③ISO/IEC JTC1/SC37 標準化推進

バイオメトリクスに関し、BSC委員会を活用して標準化セミナーを実施し、また協会ウェブサイトによる情報提供など行い、ISO/IEC JTC1 SC37でのバイオメトリック関連標準の検討状況の国内周知と標準の普及・啓発を図る。本活動は、SC37専門委員会と連携して活動する。

#### ④JIS原案作成

ISO/IEC 15415 バーコード印刷品質評価仕様—二次元シンボルのJIS化を推進する。

#### ⑤リライタブルハイブリッドメディア(RHM)ガイドブックの改定

RHM を実運用するに当たり、油汚れの対策について検討し、発行済みのガイドラインに追加修正を行う。

#### ⑥アジア生体認証技術評価基盤システムの構築

本事業は、アジア圏で連携し、リモート適合性試験を実現するために必要となる機能仕様の国際規格への盛り込みを行うための提案を実施する。

#### ⑦マルチモーダル認証性能評価標準化

本事業は、生体認証システムの認証性能評価基準を規定している国際規格に修正を加えマルチモーダル生体認証システムの認証性能評価基準の国際標準化を進める。

## 2.3 自動認識システム等に関する普及啓発

### ①第 15 回自動認識総合展の主催

9 月 25 日から 9 月 27 日の 3 日間、東京国際展示場にて「第 15 回自動認識総合展」を開催し、NFC コーナーやサプライコーナー等の集客促進を考えた展開を進める。また、セミナーは上智大学の荒木教授をコーディネータとして自動認識技術の活用事例等を紹介する併設セミナーを開催し、自動認識の普及に努める。

### ②第 11 回自動認識総合展大阪の主催

大阪市のマイドームおおさか展示会場において「第 11 回自動認識総合展大阪」および併設セミナーを開催し、西日本地域での自動認識の普及促進に努める。

### ③会報誌「JAISA」、自動認識技術情報誌「JAISA NOW」の発行

協会活動、ユーザ導入事例、市場動向や最新の技術動向を会報誌として発行するとともに協会ウェブサイトで公開することにより、広く会員及び一般の方々に紹介し、会員への啓発、及び新規入会のきっかけとする。また、第 15 回自動認識総合展にあわせて自動認識全般に関する広報のための情報誌として「JAISA NOW」を発行する。

### ④国際及び国内標準の普及

バーコードや RFID の自動認識に関しては、一般社団法人電子情報技術産業協会に協力し ISO/IEC JTC1 SC31 に関する標準化推進を行い、国内のバーコードに関連するインフラの安定発展を推進する。

バイオメトリクスに関しては、BSC 委員会の活動を通して、ABC(Asian Biometric Consortium)との連携を図り、日本のバイオメトリクス関連情報のアジア圏に対する情報提供とアジア圏の関連情報の収集を行う。

### ⑤自動認識システム大賞

自動認識技術を用いた先端的応用事例を公募し、各業界の有識者の厳正な審査により、自動認識システム大賞、優秀賞、フジサンケイビジネスアイ賞を選定すると共に、技術面での先進性を評価しえる内容がある場合については、特別賞を選定する。各賞は自動認識総合展においてパネル展示し、報道機関に発表するとともに、協会ウェブサイト及び会報「JAISA NOW」で紹介する。

### ⑥セミナーの開催

各部会、専門委員会では、各関連団体等の専門家および学識経験者を招いて、自動認識の最新の技術動向、ユーザ動向、標準化動向等に関する研修セミナーを行う。

#### ⑦ウェブサイトによる情報提供

会員専用ページを含め、ウェブサイトの充実を図るとともに活用促進をすすめる。また、部会および委員会の活動状況を分かりやすく報告する。セミナーの開催案内及び実施したセミナーの内容等を紹介し、広く一般へ自動認識の普及促進を図る。

#### ⑧現地研修会の実施

各部会・委員会のメンバーを募って自動認識技術を導入し成果をあげているユーザを訪問し、実施状況や効果の説明を受けるとともに相互に意見交換や研鑽を行う現地視察研修会を実施する。

#### ⑨広報資料作成

JAISA 知名度向上のため、一般紙や業界誌で頻繁に自動認識情報を取り上げてもらう広報資料の作成を行う。

#### ⑩資格認定登録

自動認識技術者の育成・確保を図ると共にその技術を広く社会に知らしめていくため自動認識技術者認定登録を行うため、以下の講習・試験を実施する。

第 21 回 自動認識基本技術者資格認定講習会・試験 : 平成 25 年 6 月

第 22 回 自動認識基本技術者資格認定講習会・試験 : 平成 25 年 10 月

第 4 回 自動認識バーコード専門技術者資格認定講習会・試験 : 平成 25 年 7 月

第 8 回 自動認識 RFID 専門技術者資格認定講習会・試験 : 平成 25 年 11 月

#### ⑪部会、委員会の開催

各部会、委員会は基本的に 1~2 ヶ月に一回の会合を開催し、最新情報を提供していく。

## 2.4 自動認識システム等に関する内外関連機関等との交流及び協力

#### ①外部業界団体との交流

一般社団法人電子情報技術産業協会等の自動認識関連のユーザ団体や関連工業会が行う標準化、規格作成等に積極的に協力、参画する。

RFID の普及促進に向けての技術支援や周波数移行に関する情報交換・協会全体としての交流活動等を進める。

バイオメトリクスに係る規格の標準化推進事業を、アジア各国のバイオメトリクス関係者と連携しながら進める。

#### ②海外関連団体との交流・招聘

当協会と交流がある韓国 RFID/USN 協会 (KARUS) 及び中国 RFID 産業連盟 (CIITA RFID China Alliance)、AIM China との展示会交流等の継続実施を行う。

以上